

平成 28 年度自己点検・評価報告会（28. 12. 26 開催） 質疑応答要旨（抜粋）

- Q.（経済学部生の質問）位田学長が冒頭で述べていらっしゃる「この大学の伝統」とは何であるのか教えて頂きたい。
- A.（位田学長）本学には長い歴史の中で教育研究において培ったさまざまな成果があり、これが伝統である。伝統は大切にすることがあるが、伝統が伝統で終わっては発展はない。昔から受け継いだものをもとに新しい伝統を作らなければならない。我々は今、何を新しい伝統とするかを考えようとしている。伝統を誇りにしながら、強い意欲と気概を持つイノベーターとして、新しい試みにチャレンジしていきたい。先生方も、学生諸君も含めて、新しい伝統の担い手となる気概をもってほしい。今後、学生と学長との対話・議論を通して、新しい伝統を培っていきたい。
- Q.（経済学部生からの質問）「文理融合大学」を目指すとのことだが、なぜそこを目指すのか、理由を教えてください。
- A.（位田学長）文理融合を推し進める背景として、現代社会には、これまでの学問体系では、乗り越えられない新しい問題が多く存在している。例えば、環境問題は、文系・理系それぞれが理解しながら解決すべき問題である。データサイエンスについても、データだけを扱うのではなく、そのデータがどういう意味を持っているかを、文系のいろいろな分野の人の知識を活用し分析する必要がある。そういう社会的状況から、教育研究においても、新しい視点や方法論を構築する必要がある。今までの文系・理系の区別では解決できない問題を、本学は、文理融合でもって解決し、社会に対して大学としての役割を果たしていきたい。
- Q.（教育学部生からの要望）学生の個人情報やSUCCESで管理されていると思います。だからこそ、大学内の情報等が漏れないように対策することはとても大切です。情報セキュリティ対策基本計画の策定を出来るだけ早く進め、課題を解決できるようにしてほしい。また、学生を含む滋賀大学全体の情報セキュリティに対する意識を向上させるような取組をしてほしい。
- A.（須江情報処理機構長）今回のWI-FI環境の整備にあたっては、情報セキュリティ確保には特に配慮しており、情報セキュリティ強化のためのソフトを全学的に導入する予定である。学生の方も、情報セキュリティ強化のための取組に協力をお願いしたい。
- Q.（経済学部の学生からの質問）これからの大きな変化となる取り組みの一つとしてデータサイエンス学部の設置が挙げられると思うのですが、方針やビジョンがあることはわかりましたが、もし定員が集まらなかったらどうするのかという疑問を持ちました。
- A.（竹村データサイエンス設置準備室長）プロモーションビデオの作成や、シンポジウムの開催、オープンキャンパスやプレオープンイベントを実施しているが参加者の反応はよい。また、受験雑誌や新聞社からの取材も多く、大きく取りあげられており、社会や企業の関心は高いといえる。ただ、データサイエンス学部は日本に1つしかないため、受験生や進路指導の先生には不安がある。今後も高校訪問を通して不安を解消し、認知度を高めたい。なお、欠員が生じた場合には、追加合格で対応したい。
- Q.（経済学部同窓会からの質問）大学は、厳しい財政事情の中、教員の評価制度においてどのような工夫をされているか。自己点検報告書が評価のツールとなっているようだが、自己申告が実際に教員の処遇にどのように反映されているのか。
- A.（三ツ石理事）教員の教育、研究、大学運営、社会貢献の4つの領域に対して教員自ら自己点検・自己評価し自己点検報告書を作成する。その自己点検報告書について、所属部局において妥当性を評価したうえで、さらに全学で再評価している。その結果を、勤勉手当の優秀加算に反映することで処遇に反映している。
- Q.（経済学部同窓会からの要望）どの大学も財政上の問題があり、同窓会の力をいかに利用するかが課題となってきている。今までは、教育と経済しかなかったが、今後3学部となる場合、大学サイドでもOB会の窓口ポストが必要であり、組織の改善が必要ではないか。
- A.（位田学長）確かに、大学にも同窓会との窓口が必要と考える。ヒトとお金があるので十分に対応できないかもしれないが、今後検討していきたい。